

会議の要旨（議事録）

会議の名称	鳥栖市社会教育委員定例会		
開催日時	平成25年7月5日(金) 14時から	開催場所	市役所 2階第1会議室
出席者数	21人	傍聴人数	0人
議題	(1) 平成24年度社会教育関係事業報告について (2) 平成25年度社会教育関係事業計画について (3) 鳥栖市勤労青少年ホームについて		
配布資料	・ 鳥栖市社会教育委員定例会資料 ・ 鳥栖市勤労青少年ホームについて		
所管課	(課名) 生涯学習課 (電話番号) 0942-85-3694		

1. 開 会

- 事務局(緒方課長)
 - ・委員欠席者の報告
- 委員の自己紹介
- 教育部職員紹介
- 天野教育長あいさつ

2. 議 事

(1) 委員長、副委員長の選任

互選により委員長に末次委員、副委員長に檜崎委員を選出。
末次委員長、檜崎副委員長のあいさつ。

(2) 平成24年度社会教育関係事業報告について担当課より報告。

- 放課後子ども教室にいろんな教室があるが、文化連盟も喜んでボランティアで協力したいと思う。日舞など日本の伝統文化などの体験も可能。
- 市村自然塾九州での体験活動の希望者数は何人か。
 - 80人の応募があった。
 - 35人しかだめなのか。
- 市村自然塾には部屋が5つあって、自然塾では通常一部屋6人の30人だが、鳥栖市の事業では少し多い35人。食堂の椅子など限りがあるのでそれ以上は厳しい。
- 市村自然塾に入るのはどのようにしたらいいのか。パンフレットなど配られているのか。
 - この事業は市村自然塾九州の建物を借りて、自然塾のスタッフの協力のもと行っている事業であり、市報や対象の児童にチラシを配っている。市村自然塾九州が年間を通して宿泊研修をするものとは違う。
 - 以前鳥栖市の図書館へ図書への寄贈を申し出たが断られたがなぜか。
 - 基本的に、市立図書館では一般の方からの図書の寄付は受けていない。
 - 鳥栖市の図書館には語学の参考書がとても少ないので買った本が何百冊もあるのだが、できるだけ多くの人に見てもらえればと思い図書館を考えた。ほかにも同じような思いを持っている人がいると思う。検討してほしい。
 - 学校などはどうか。
 - 専門書などをたくさん持っていて、どうしようかと悩んでいる方はたくさんいるだろう。何かいい方法があればいいが。
 - 平成2年に弥生が丘小学校が開校したとき、地域の方からたくさん本を持ってこられた。いろんな本の中から子どもたちの鑑賞用にといただいたものもある。学校に聞いていただくのも一つの方法かと考える。

(3) 平成25年度社会教育関係事業計画について担当課より説明。

- 生涯学習講座をまちづくり推進センターで開きたいが、講師謝金の限度があるため、いい講師がいるけれども呼べないという現状がある。予算の増額をお願いしてほしい。
- 講座の講師料は各まちづくり推進センターで決まっているのか。
- だいたい大学教授はいくらという風に決まっている。

- いくつかが合同して行うのも一つの方法ではないか。
- 昨年もお尋ねしたが、河内にある社会教育研修場のトイレなど施設の現状は以前のままか。手を入れたりはされないのか。
- 現状維持するのが精一杯。昨年度井戸水のポンプが壊れたが何とか新たなポンプに交換することができた。利用者に不便をかけないように維持していかなければと考えている。また毛布等についてはクリーニングをしている。
- 宿泊研修ができるように綺麗にしたら、子どもクラブなどで利用する人がもっと増えるのではないか。せっかくあの場所に施設があるのだから、子どもたちのために費用をかけていただければと思う。
- 自然塾を希望するけれど、鳥栖市の子どもが入れる枠というのが決まっている。希望者も鳥栖市の子が一番多いので、入れない子どもがたくさんいる。そういう子が、ここで体験ができるような場があればいいと思う。
- あれが原点だからいろんなことを経験できていいのではないか。衛生的にはきちんとされているので。確かによそと比べると勝手が悪いように感じるかもしれないけれど、小学校の体育館でするよりあそこがいいよということもあるのではないか。
- 自然体験活動をしたいと思って応募してくる子どもさんが増えていけば、このような施設を整備していこうということになっていかないうちだろうか。

数年前にこの委員会で話をしたが、他の市町では通学合宿を実施されている。鳥栖市でもやりたいなということで盛り上がったが、なかなか実現しない。
- 通学合宿については、昨年、佐賀東部地区政策研究会という若手メンバーによって鳥栖小学校の子どもたちを対象に妙善寺さんに宿泊して通学合宿が行われた。今年も鳥栖北小学校校区で本昭寺に宿泊する予定。風呂は近所の家にもらい湯をされるそうで、ボランティアの方にも協力していただくと考えている。この通学合宿が、鳥栖市の中でいろんな団体が関わり自主的な活動として地域に根付いていくように是非やっていただきたいと話した。
- 今年度は、基里まちづくり推進センター主催の放課後子ども教室事業の中で通学合宿が予定されている。
- こんな風にまちづくり推進センターで取り組みがなされると、まちづくり推進センターに変えた存在価値が上がる。期待する。
- その他で申し上げようと思ったが、皆様方のご理解とご協力を頂きたいのでここで発言をする。昨年、鳥栖・三神地区の社会教育委員連絡協議会の研修で、飯塚市の熟年者マナビ塾を視察し、鳥栖でも取り組みたいという意見があった。

簡単に説明すると、いわゆる熟年者が現役時代に身に付けたいろいろな経験や体験、知識や技能を用いて学校の空き教室を利用し、熟年者の学びの場を与えるというもの。学校に熟年者が来ることによって、高齢者と子どもたちとの間に触れ合いが生じる。その触れ合いの中で子どもたちの徳育や倫理観が養成されていき、同時に高齢者は、子どもと触れ合って話をする事で元気をもらえるということ。飯塚市には、28ほどの小学校があり、全校で全部取り組まれているようだ。

当然のことながら飯塚市長をはじめ教育委員会、PTA や校長会、老人会いろいろな関係諸団体や組織がからんでやっておられる。私はこれを前からやりたいと思っていたので、老人会で旗振りをしたいと考えている。そこで、市老連で策定委員会をつくり勉強会をしようということになり、熟年者マナビ塾をもう一度見学・研修することになっている。しかし、市老連だけでできることではないので、市長や教育長、校長会やまちづくり推進センター、ここにおられる皆さんのご了解も必要。

皆さんからのご意見も承りながらよりよいシステムづくりをしたいと思っている。そうい

うことによって、老人に生きがい生まれ、脳が働き、健康になる。病気にもならず、保険料も少なくなるかもしれない。

その中の一つとして、まずやりたいのが英語の教育。英語は国際語なのに、文科省が小学生の英語力測定をしたら、日本が最低だった。こんな子供が将来国際社会に出て行って何ができるのか。今から勉強しなければいけない。

老人会の中には、ちゃんと英語の勉強をした人がたくさんいる。元学校の先生、趣味で英語を勉強していていまだに続けている方などがおられるので、今麓地区でやっている寺子屋英語教室をモデルにして七つの校区に広げたいと考えている。

そのことを、先日教育長にも了解をいただき、生涯学習課にも相談した。今後はいろいろご協力をお願いすることになると思う。

— 教育長ほか各課長退席 —

(4) 鳥栖市勤労青少年ホームについて説明。

- 以前使い勝手が悪いという話を聞いた。借用時間内に切られたりして、利用したいという気持ちがおこらない。もっと使い勝手の良い施設にしてもらいたい。それから、名前を考えて青少年に限定するのではなく社会教育施設ということで充実していくようにしていくといいのではないかと思う。
使用料についても、まちづくり推進センターと同じような形で考えたほうがいいのではないか。使わせてやっているという感じではなく、ありがとうございますというくらいの施設になって欲しい。
- 今年の2月に社会教育委員の方々からご意見を頂き検討してきたが、その中で、青少年の居場所という機能は担保する必要があるだろうが、実際増えている目的外利用を条例の見直し等を含め整理をしていこうということになった。
もう一つは、地区公民館がまちづくり推進センターになり、地域活動拠点という位置づけになっているので、この勤労青少年ホームは、NPOなど志縁団体の活動の一つの場所という位置づけも考えられるのではないかという方向で整理を進めていきたいと考えている。この方向性でご了解いただけるのであれば、これで進めていきたい。もちろん、施設のあり方ということでトップの了解が必要であり教育委員会等の手続きや市長部局の最終的な合意がなければ進めることができない。
- せっかく近くに社会福祉協議会もあるしグラウンドもあるので、一つのゾーンとして、有効活用を図っていくことができないものか。
- 鳥栖市の学校には、多分空き教室がないので、飯塚市のマナビ塾のように学校ではできないので、例えばこの青少年ホームで同じことをされても構わないのではないか。
- 学校の教室がなければ、まちづくり推進センターを利用してできるのではないかと考えている。もちろんこの青少年ホームを利用することも考えていいと思う。
- いろんな意見が出てきたときに、相談したり話し合ったりする場が必要。そのような意味でも、この青少年ホームを社会教育の館として持っておくことはこれから大事になるのではないか。この前の社会教育委員会では社会教育施設としてとっておこうよという意見だった。
この方向でいってもらいたいと思う。

- せっかくある施設で2階には会議に使えるところもある。有効活用していただけるといいのではないか。
- 施設が古くて明るさがないのでそのような所も考えなくてはいけないと思う。
- 最近勤労青少年ホームで若い方を見かけることがない。隣に社会福祉会館がありそこには身体障害者の方や高齢の方や子育て世代の方も来られるので、青少年ホームがいろんな方の居場所や交流の場になってくれればいいと思う。和室も調理室も会議室もある。確かに古いが、住めば都。児童センターなども近くにあるので、もっと目が向けば利用されるのではないか。
- ここは何だろうと不安に思うようだと集まらない。
- もっとイベントなどをして使っていけば、親しみがわいてくるかもしれない。
- 食べ物とかを販売したりすると、広がっていくのではないか。
- お年寄りの方は器用な方がおられるので、そこで作ったものを販売するというのもいいのではないか。できれば運動広場で1年に一回販売するというようなイベント的なことをすれば、イメージアップにもなるのではないか。
- 全体的に見直すということで、遠い将来も見据えながら、当面ご提案のとおりの方角ですすめていただこう。
多く方が利用していくように、施設に慣れ親しむことが大切。例えば歴史講座なども青少年ホームで開催するとか、この社会教育委員会もそこで開催するとか、度々使うようなことをまずしていったらどうか。
- 若者の居場所というのはどういうことか。
- 基本的には、今ホームで行っている勤労青少年を対象にした料理教室やピラティス教室等に参加している青少年もいるので、そういう部分については引き続き担保してやっていこうということ。
- 事務局の提案された方向で進めていただくということをお願いします。

3. 閉 会